

第7節 都市及び交通ネットワーク形成の推進

1 コンパクトなまちづくりの推進

(1) 低炭素型地区・街区の形成に向けた検討

比較的大規模な新規開発、既成市街地再開発における地域熱供給、再生可能エネルギー・未利用エネルギー等の導入、建築物の省エネルギー対策、マイクログリッド等の将来像を踏まえ、低炭素型地区・街区の形成の情報収集等を進めています。

- 県内自治体の再生可能エネルギー関連施策の情報収集を進め、状況把握に努めています。⁽¹⁹⁾

2 公共交通機関の連携強化の検討、利用促進

(1) 公共交通の維持・活性化

「大津市地域公共交通総合連携計画」に基づき、大津市地域公共交通活性化協議会が主体となり、施策を展開しています。

- 公共交通それぞれの利用者数 JR 232,280 人／日、京阪電車 62,499 人／日、路線バス 27,721 人／日⁽²⁸⁾

指標[計画策定時];公共交通それぞれの利用者数 JR [H21]227,428 人／日、京阪電車 [H21]68,148 人／日、路線バス [H20]30,552 人／日

(2) 住民・公共交通事業者・行政の三者一体となった取り組みの推進

公共交通確保に向けた三者一体の取り組み(ルール化、要綱等の制定、パートナー協定締結方式の検討等)、市民主体の活動への支援を実施しています。

- パートナー協定締結方式による路線バスの利用促進に向けた取り組み

上田上・比叡平地区において住民・公共交通事業者・行政の三者で協議会を設置し、定期的に開催する中で、各々の地域のバス交通について、利用促進を図るほか、積極的にバス路線の存続について議論を行い、対策を図りました。⁽²⁸⁾

- 「大津の京阪電車を愛する会」事業への支援

市行政の側面的支援により、各種イベントを、市民ボランティア主体で実施されました。⁽²⁸⁾

(3) 公共交通への利用転換の促進

自家用車から鉄道・バス等の公共交通機関への利用にシフトするよう、通勤・通学される方を対象に啓発を行っています。

- 浜大津を拠点としたパーク&ライドの実施

年間を通して、駅でのポスターの掲示やホームページにより事業の周知を行うとともに、秋の観光シーズンにおける集中的な広報展開により、更なる利用促進を図り、年間 13,658 台の利用がありました。⁽²⁸⁾

パーク&ライドの実施状況

年度	実施期間	利用台数	1日平均利用台数
平成 18	通年	7,189 台	19.7 台
平成 19	通年	8,417 台	23.1 台
平成 20	通年	8,734 台	23.9 台
平成 21	通年	11,370 台	31.2 台
平成 22	通年	12,159 台	33.3 台

平成 23	通年	13,861 台	38.0 台
平成 24	通年	15,329 台	41.9 台
平成 25	通年	15,431 台	42.2 台
平成 26	通年	15,462 台	42.3 台
平成 27	通年	15,128 台	41.4 台
平成 28	通年	15,345 台	41.9 台
平成 29	通年	14,827 台	40.6 台
平成 30	通年	13,658 台	37.4 台

指標[計画策定時];パーク&ライドの利用台数 11,370 台／年

(4) 自転車駐車場の整備

自転車は環境への負荷の少ない乗り物ですが、駅前広場や歩道に放置されると、車椅子や歩行者の通行のさまたげとなり、救急、消火活動の支障となるなどの問題が起こります。市では、主要な駅前を中心に自転車駐車場を整備し、利便性の向上を図るとともに、放置自転車等の対策に努めています。

- 自転車駐車場の整備; 14,467 台(自転車 10,403 台、原付・自動二輪 1,980 台、一時預り 2,084 台 平成 31 年 3 月末現在)⁽³⁵⁾

目標;自転車等収容可能台数 16,192 台

(5) 公共交通の結節点の強化

- 結節点を強化することで公共交通の利便性の向上を図るため、JR膳所駅舎の橋上化及び新南北連絡道路に関する基本協定の締結を実施し、平成 29 年 6 月に供用を開始し、平成 31 年 3 月に北側駅前広場も使用を開始しました。今後は引き続き、駅南側整備を進めてまいります。⁽²⁹⁾